

小倉高校第15期同窓会の皆様

昨年2月原健次君が急性心不全で亡くなったことを覚えていると思います。今年の3月10日宇都宮市内で行われた原君の一周忌法要に江藤幸寛君、佐々木誠君と私の3人で参列しました。原君を含めて私達4人は思永中学の3年で同じクラスとなり4人揃って小倉高校に合格しました。大学はそれぞれの道を進みましたが、社会人になっても時々会って旧交を温める仲でした。私達4人がそろって会ったのは約20年前、東京の新橋で夜の一時を過ごしたのが最後でした。

最後のお別れをしたいとご遺族にお願いして参列しました。法要・納骨の後ご遺族の皆さんとの食事会で原君の思い出などをお話して、その後ご自宅にお伺いして書斎などを見せていただき原君の在りし日の姿を思い浮かべながら帰路に着きました。3人とも参列してよかった、1年間の胸のつかえがとれたという思いでした。そして元気なうちに会おうと約束して東京駅で別れました。一週間後奥様よりお礼状とともに原君が書いた「がんは運次第」という文書が届きました。

そこには2009年11月に進行性胃癌と告知され“死”を受け止めたこと、胃癌とはどういうものか、入院・手術を待つ心、そして12月の手術とその後の経過、入院中に読んだ本、退院とリハビリ、癌再発の恐れ、死生観の変化、新たな人生への希望などが、A4・27頁にわたり克明かつ赤裸々に綴られ、最後に「人生万事塞翁馬」の格言とともに健康診断を勧めてくれた奥様への感謝の言葉で締め括られていました。日付は2010.9.10となっており退院して約8ヶ月間掛けて書き上げたものと思われます。書き終わったのは亡くなる5ヶ月前でした。

私は圧倒される思いで何度も読み返し、改めて原君の人生に思い馳せました。中学・高校時代は化学の実験に熱中し、九州大学農学部に進学し農芸化学を専攻して博士号を取得し、花王入社後はエコナ（サラダ油）の開発プロジェクトリーダーとして商品化などに大きな業績を挙げました。またピオラ暦50年の奏者として地元栃木交響楽団でも活躍していました。さらに40代からマラソンに挑戦し2009年にはイタリア南端からノルウェイ北端まで4500kmを65日で走るトランスヨーロッパフットレースを走破して周囲の人々から鉄人と呼ばれ尊敬され、一方で「ウルトラジージ」と自称して人々から愛されてもしていました。

「がんは運次第」も化学者として冷静に癌と自分を見つめる姿勢が貫かれており、癌とともに生きるぞという強い気迫も感じられました。その鉄人が命をかけて闘った癌ではなく、心不全で「もう動けない・・・」という言葉を残して急死するとは信じられない思いです。

恐らく原君にはもっとやりたいこと、もっと挑戦したいことがたくさんあったはずであり、無念であったと思います。あらためてご冥福をお祈りしたいと思います。

私達はすでに人生の第4クォーターに入り、いつ死と向き合う時が来ても不思議ではありません。同じ時代を生きてきた友人として、原君の遺書とも言うべき「がんは運次第」をぜひ皆様に読んでもらいたいと思い、お送りします。

これからの我々の人生にきっと役に立つものと思います。

原健次君の思い出や「がんは運次第」を読んだ感想を、ぜひ奥様にお伝えください。

原健次君の思い出や感想の送り先

〒321-3223

栃木県宇都宮市清原台6-31-26

原典子様

Tel : 028(667)5741

2012年5月7日

〒227-0033

横浜市青葉区鴨志田町569-1-19-404

齋藤世二

Tel : 045(962)2624

Mail: seiji-saito@nifty.com